

# 沢田内科医院 ニュースレター

## 第51号

### 新型インフルエンザが疑われる時は弘前保健所に電話して下さい

アメリカ、カナダ、メキシコを中心に全世界に新型インフルエンザが広がっています。日本でも、カナダから帰ってきた人たちが感染していることが分かり、今後、国内に広がることは明らかです。現在のところ、新型インフルエンザが疑われる場合は、弘前保健所に電話して下さい。



感染がさらに広がり次の段階に入ると、熱がある人は新型インフルエンザ外来(通称、発熱外来)と呼ばれるところで診察を受けることとなります。つまり、熱

**弘前保健所の電話番号 33-8521**

がある人が普段どおり病院を受診すると、他の人たちに感染させてしまいますので、ある程度隔離するわけです。

新型インフルエンザ対策マニュアルは一応ありますが、経験したことがないウイルスによる病気ですので、姿が明らかになるにしたがって対応が変わってきます。インフルエンザのような感染症は、自分の体を守るだけでなく、他の人に移さないようにするのが大事です。分からないことがありましたら、直接病院へは行かず、弘前保健所か医療機関に電話で問い合わせして下さい。

## 新型インフルエンザ

人、鳥、豚の3つのウイルスが融合した新型のインフルエンザウイルスがメキシコに出現し、ものすごい速さでアメリカを初め全世界に感染が拡大しています。5月8日には、カナダから帰国した高校生と引率の先生の計3人が感染していることが分かりました。日本国内でも感染が広がるのは時間の問題です。

インフルエンザの歴史から考えると、そろそろ新しい形のインフルエンザウイルスが現れると予想されていました。新しいウイルスに対しては、誰も抵抗力を持っていませんので、世界で流行すると、とてつもない多数の死者が出て、社会機能が麻痺するのではないかとされています。そして、この新しい形のインフルエンザは、主にアジアで感染が見られる毒性が強い鳥インフルエンザから形を変えて人に感染が広がると予想されていました。

ところが、4月下旬にメキシコに近いアメリカで豚由来のインフルエンザにかかった人がいることが報告されました。そして、このウイルスは実は、メキシコですでに多くの感染者を出し、死亡者がいたことが分かったのです。豚からのウイルスと言われていますが、人、鳥、豚のウイルスが混じったもので、人に感染するだけでなく、人から人へと感染するウイルスであることが分かりました。

インフルエンザウイルスは、人だけでなく鳥や豚にも感染します。鳥や豚のインフルエンザウイルスが人に感染しても新型インフルエンザとは言いません。人が感染した鳥や豚のインフルエンザウイルスが、人から人へ移るようになった場合を新型インフルエンザと言います。今回は、豚に感染するインフルエンザウイルスが人へ感染し、人から人へ感染するようになったために新型インフルエンザと認定されたのです。

幸いなことに、今回の新型インフルエンザウイルスの

毒性はそれほど強くはなく、死亡例は少ないようです。しかし、このウイルスが強い毒性を持ったウイルスに変わる可能性があります。そうなれば多数の死者を出す可能性があります。また、このウイルスとは別に、これまで予想されていたように、鳥インフルエンザウイルスが人の間で感染するようになり、強い毒性を持った新型インフルエンザが同時に発生することも考えられます。

国外からの新型インフルエンザウイルスの侵入を阻止しようと、空港や港では検疫所が一生懸命です。その甲斐があって、カナダから帰ってきた感染者の入国を阻止することができました。しかし、アメリカ国内の感染者数の増加速度はすごいものです。ソ連型とか香港型と言われているインフルエンザは、最初は新型インフルエンザでした。今の新型インフルエンザも通常のインフルエンザになるのは間違いありません。

新型インフルエンザに対して免疫がありませんから、このままでは世界中で多数の人たちがインフルエンザにかかります。新型インフルエンザウイルスに対するワクチンを作るには、6ヶ月くらいかかるようです。検疫所の職員が頑張っているのは、日本国内での流行を少しでも遅らせ時間稼ぎをするのが目的です。その間にワクチンが開発され、日本の流行が最小限に食い止められれば幸いです。しかし、アメリカ国内での感染拡大速度を見ると、とても期待できそうもありません。

インフルエンザウイルスには、ワクチンが最大の武器です。しかし、ワクチンが開発されるまでは、自分が感染しないようにし、感染を周囲に広めないようにしなければなりません。そのためには、口や鼻に手をやらないこと、手を何回も洗うこと、咳やくしゃみをする時は袖やティッシュで口や鼻を押さえること、などが大事です。マスクをすること、うがいをすることも大事です。



欧米では風邪をひいた時にマスクをしたり、うがいをする習慣はありません。マスクをしないアメリカで日本よりもインフルエンザが多く流行しているという話は聞きません。ただし、これは日常生活で一般の人たちがマスクをしないということで、医療機関でマスクをすることが感染を予防することは分かっています。インフルエンザの予防のためにはマスクをした方がいいと思います。ただし、何回もくしゃみや咳をした場合は、新しいマスクにしましょう。ポケットに入れておいて、何日も使うようなことはしないようにしましょう。



## 井上真利子さんが婦長になりました

前の婦長が退職してから、しばらくの間、婦長職が空席でした。この4月から、井上真利子さんが婦長になりました。これまでは集団指導体制のような感じでしたが、やはり、指揮命令系統がはっきりしないと、いろいろ情報伝達に支障を来すことがありました。また、医療事故などを契機にして、院内感染対策、医療安全対策など、事務的な仕事がたくさん増えてきましたので、これらに対応するためでもあります。

井上さんは、私が弘前市立病院に勤務していた頃に内科外来で働いていました。平成7年、私の開業と同時

に移ってきました。その頃は、黄色い声をしていましたが、さすがに最近は黄色味が薄れてきています。年齢を知りたい方もいるかと思いますが、今の世の中では個人情報として扱われるかも知れませんが、明らかにできません。声に黄色味がなくなってきたということ、今回、看護師国家試験に挑戦した3人の中では最年長であることで、年齢を想像してみてください。

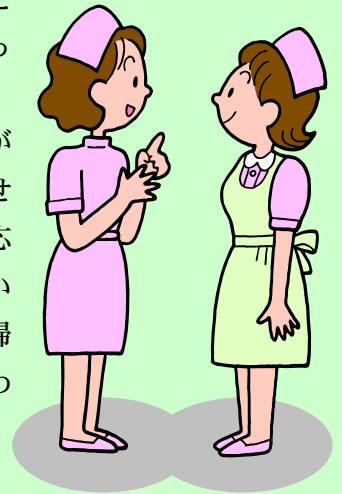
沢田内科医院の医療レベルを維持して行くことはもちろんですが、井上さんが婦長になったのを機会に、患者さんが快適に医療を受けられるような雰囲気を作っ

ていくことにも重点を置きたいと思っています。医療もサービスと考えて、ホテルに滞在したり飛行機に乗った時のような扱いをするのが理想だと講習会を開いている病院もあるようです。しかし、私はそのようには思っていません。

初めて会った人に対しては、敬語を使った丁寧な言葉使いが可能でしょうが、沢田内科医院のように、開業して13年が過ぎ、ずっと通院してくれている患者さんが多数の医院ではどうでしょうか。最近流行の経鼻内視鏡検査は、患者さんと話しながら検査をすることができます。鼻を通して内視鏡を入れますので、患者さんと話をすることができます。10年も前から毎年検査を受けている患者さんに対して、「三上様、お鼻に痛みはございませんでしょうか？」などと言葉をかけたり、腹が痛くて顔が真っ青な人に敬語を使って状態を把握するのは現実的ではありません。

それに、沢田内科医院には日本の標準的な敬語を普通に使える人もいません。沢田内科医院の標準語は津軽

弁ですし、津軽弁を標準語として、あずましい医院を作りたいと思っています。形式的なことでサービスが行き届いているように見せかけるよりも、実のある対応をして行きたいと思っています。津軽弁が流暢な井上婦長になって、この点でも変わっていくと思います。



新聞で公立病院の人事異動を見ると、看護師長という職名が使われています。法律は「保健師助産師看護師法」であり、看護婦という職業はなくなり看護師が正しい呼び方です。しかし、温かみを感じられる婦長という言葉は捨て去るのは惜しい気がします。入院患者さんも「看護婦さ〜ん」と呼ぶ人がほとんどです。今後、どのように変わるか分かりませんが、沢田内科医院では看護師のことは看護婦、そのトップを引き続き婦長と呼ぶことにしました。

## 看護師国家試験は2人が合格しました

3月26日に看護師国家試験の発表がありました。今回は、井上真利子さんと菊池千枝さんが合格しました。この3月に八戸看護専門学校通信制課程を卒業し、看護師を目指して放送大学に入学してから5年で達成しました。おめでとうございます。

子どもたちが勉強する場合もそうですが、大人が仕事をする場合にも、その結果が何らかの形で残せたらというも思っています。形に現わすことができれば強烈な達成感が得られ、自分が行ったことに満足感が得られます。そして、次にまた何かをしようという気持ちが起こってきます。私は、准看護師の資格を持っている人たちに、その何らかの形として「看護師資格を得ること」はどうかと提案しました。今回、それが形として現実のものになったというわけです。

ここで話が現実的なことになります。私の医院には看護職員が10人います。3月までは、3人が看護師で、7人

が准看護師でした。1人は看護師として採用しましたが、2人は沢田内科医院で准看護師から看護師になりました。この2人も、今で言えば社会人入学のようなもので、准看護師になって何年か後に看護学院に入学させました。今回2人が准看護師から看護師となり、3年後には全部で8人が看護師となる予定です。准看護師と看護師は給与基準が違います。せつせと看護師資格をとらせた結果、職員の給与費が大きくなってきますので、沢田内科医院の財政状況は大変なことになりそうです。

私は、誰かが勉強している状態を保てれば、看護の内容が向上していくと思っています。そして、医院の医療レベルが上がれば財政状況も好



転していくと思っています。結果的に、沢田内科医院にとっても、通院してくれる患者さんにとっても、両方に利益になると信じています。最初から完成された体制で始めればよいようなものですが、自分たちが仕事をしながら育って行くことに意味があるのではないかと考えています。

さて、もう一人のチャレンジャーである清野法子さんは、来年に持越しです。国家試験の結果は、点数が記載されて受験生一人ひとりに送られてきます。この結果と国家試験の内容を検討してみると、合格までほんの少しでした。1年間、じっくり勉強して来年に備えます。来年にご期待下さい。頑張ります。

## ストレス解消

私はよく、「先生は、こんなに忙しく仕事をしていて、どのようにしてストレスを解消しているのですか?」、「お酒もたばこもやらずに、何を楽しみにしているのですか?」、などという質問を受けます。でも、ちょっと逆に突っ込みを入れたくなります。患者さんが来てくれなくて、暇を持て余している時の方がストレスに感じるだろうし、お酒を飲むと本も読めなくなるし、たばこを吸って体を壊した人をたくさん知っています。

私は仕事をしていて、ストレスに感ずることがほとんどありません。趣味と仕事と一緒にあった幸せな人間



なのかなと自分なりに解釈しています。ずっと患者さんを診察していても、自分を頼りにしている人たちがこんなにもいるのかと思うと、全くストレスにならず、むしろ、仕事にやりがいを感じています。夜中に起こされても、人が苦しんでいるのを助けてやることは、医師として当然のことだと思います。患者さんの病気について分からないことがあっても、それを調べて新しいことを知るということがすごく楽しいので、これもストレスになりません。

一人で開業していると、遠くへ出かけた時に入院患者さんのことが気にかかります。医師会の仕事で東京へ出かけることが多くなりました。外来診察は、先輩の木村あさの先生にお願いすることが大部分ですが、夜中はちょっと大変ですので、ここまではお願いしていません。最近は、公務員に対して風当たりが強いので、

公的病院に勤務する医師に気軽に頼めなくなりました。何かの機会に、迷惑をかけることが起こらないとも限りません。昨年4月に内科医の長男が弘前へ帰ってきましたので、時々留守番を頼んでいます。ストレスがあるといえば、このあたりでしょうか。

医療崩壊という言葉が新聞を賑わしていますが、医師だけでなく患者さんにとっても不幸な時代になったものです。医師の労働状況が悪化していることは確かでしょうが、それは昔もあまり変わらなかったことだと思います。過重労働というネガティブな面が強調されていますが、医師という仕事はすばらしい仕事だと思います。若い医師には、このやりがいのある満たされた気持ちを経験して欲しいし、多くの高校生が医師を目指して欲しいと思っています。

医師の中には、「こんな状況では自分の子どもは医師にしたくない」という人がいます。しかし、私はそうは思いません。子どもに自分と同じ職業について欲しいと思える親は幸せだと思います。私の子どもたちも医師や歯科医師になりましたが、学校の先生、床屋さんも親と同じ職業の人が少なくないと感じています。やりがいのある仕事だと思えば、過重労働だろうがなんだろうが、ストレスと感ずることはないと思います。

生きている中で、もっとも多くの時間を費やす仕事がストレスになる状況でないことは幸いです。しかし、本を読んだり、音楽を聴いたりする時間がないことが残念です。ゆっくり音楽を聴いていると、自分の精神状態が「軟らかくなる」ような気がしますので、このような時間を確保したいと思っています。やっぱり、ストレスがあるのかなあ・・・。